

拘束されて、

CG画像＋ノベル
基本8枚（全78枚）
地の文、セリフ、擬音
あり・なしファイル

ミストレスから糞汁・
アナル責めを受けていたら……

というお話

キंकク文庫



紅さまは、見た目は若くて綺麗だけれども、実は人妻だ。
そしてそのことを本人の口からは聞いていない。
人づてにそのことを聞いたのだ。

紅さまの前で、俺がその人物と知り合いだなんて
口が裂けても言えない。

俺は罰として、もう二度と紅さまにお会いすることが
出来なくなるだろう。



——そんな人物、そして、そんな関係なのだ。

ゴキウゴキウ



さて——、
放尿、スカトロ、さらにペニバンによる調教の時間だ。
まず俺は、チンぐり返しに地面に拘束される。

俺からの視界に入らない場所に、紅さまは立っている。
俺の痴態を、ただ観察しているようだ。



毛が生え、卑猥に曝け出された肛門から、辜丸の裏すじまで、
じっくりと卑下するような眼差しで視姦している。



今日も紅さまお得意の、

放尿、スカトロ、さらにペニバン責め。

フルコース調教である。





ただ、今日はいつもと異なる。

後半に3人目が入る予定だ。
そして紅さまは、そのことを知らない。

正直それは、紅さまを裏切る行為——。

だがもう、そうなってしまふのは覚悟の上。

今は……今は、紅さまの熱い視線を、
自分のケツの穴に向けて頂くことに集中する。



もうこれだけで俺の海綿体は膨らみ始める。

もちろん調教はこれだけでは終わらない。



美しい紅さまの視姦からスタートする調教。

亀頭先端とケツ穴、共にジユクジユクし始めている。

——準備万端だ。